

11. 八重咲きトルコギキョウの出蕾期以降の遮光は ブラスチング小花率を高くする

1. 背景とねらい

トルコギキョウは、日射量が低下する秋～冬季に蕾が枯死するブラスチングが発生する。発生程度は一重品種に比べて八重品種で著しく、多発生時には切り花品質が著しく低下する。これまでに、ブラスチングが発生する一因として、日射量の低下による光合成産物の花蕾への供給不足が示唆されているが、寒冷紗被覆等により日射量を低下させた栽培条件でブラスチングの発生を調査した事例はない。

そこで、出蕾期以降の遮光率の違いが八重品種の生育およびブラスチングの発生に及ぼす影響を検討する。

2. 成果の内容

- 1) 「ピッコローサスノー」のブラスチング小花数は、0%遮光区の2.5個と比べて10%遮光区で3.1個、27%遮光区で3.3個、41%遮光区で3.4個になり、遮光率が高いほど増加する傾向が見られる。「雪てまり」でも、0%遮光区の2.4個と比べて遮光した3区で3.2～3.7個に増加する(図1)。
- 2) 「ピッコローサスノー」の2～5次の総小花数は、0%遮光区の13.3個と比べて10%遮光区で13.5個、27%遮光区で12.2個、41%遮光区で10.9個になり、遮光率27%以上で少なくなる。「雪てまり」も同様に遮光率27%以上で少なくなる。
- 3) 「ピッコローサスノー」のブラスチング小花率は、0%遮光区の18%と比べて10%遮光区で21%、27%遮光区で26%、41%遮光区で30%になり、遮光率が高いほど上昇する。「雪てまり」では、一定の傾向は見られないが、0%区の17%と比べて遮光した3区で24～31%に上昇する。
- 4) 開花日は、処理による大きな差は見られない(表1)。
- 5) 「ピッコローサスノー」の切り花長は、0%遮光区の59cmと比べて遮光した3区で63～65cmに長くなる。「雪てまり」でも、同様である。
- 6) 切り花重および有効小花数は、「ピッコローサスノー」、「雪てまり」とともに遮光率27%以上で減少する傾向が見られる。

3. 利用上の留意点

- 1) 夏季の高温対策として寒冷紗で被覆した場合、出蕾期を目安に寒冷紗を除去する。
- 2) 他作型におけるブラスチングの発生程度については、今後明らかにする必要がある。

(栽培技術研究部)

4. 具体的データ

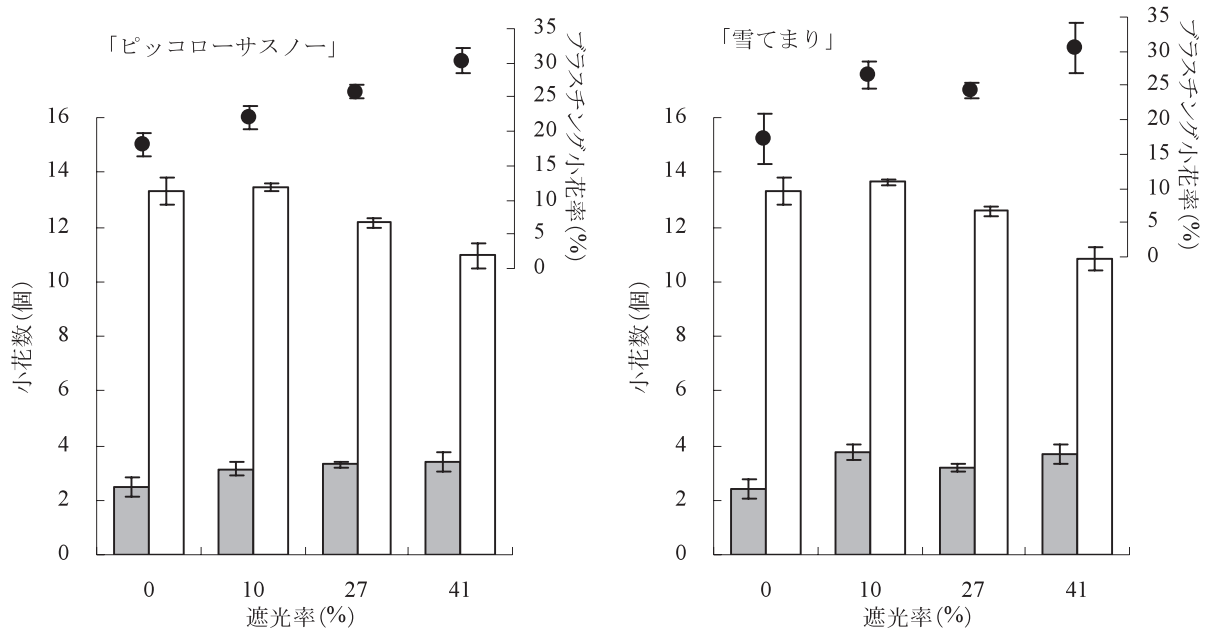


図1 出蕾期以降の遮光率の違いがトルコギキョウの小花数およびブラスチング率に及ぼす影響 (2007年)

■ ブラスチング小花数 □ 2~5次総小花数 ● ブラスチング小花率

注) 吸水種子低温処理：2007年5月2日～6月6日，10℃，暗黒条件
 育苗：6月6日～7月17日，288穴セル成型トレイ，なりゆきの温度
 定植：7月17日，区制：1区20株，「ピッコローサスノー」3区制，「雪てまり」：4区制
 遮光処理：8月26日～10月15日

表1 出蕾期以降の遮光率の違いがトルコギキョウの生育および切り花品質に及ぼす影響 (2007年)

供試品種	処理区	出蕾日 (月/日)	開花日 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	有効小花数 ² (個)
「ピッコローサスノー」	0%遮光	8/19±0.2	9/21±0.2	59±0.8	58±1.0	7.7±0.1
	10%遮光	8/19±0.2	9/20±0.2	63±0.2	58±0.7	7.3±0.1
	27%遮光	8/20±0.3	9/22±0.5	65±0.4	50±0.6	6.9±0.1
	41%遮光	8/20±0.1	9/23±0.4	63±0.3	44±1.1	6.3±0.1
「雪てまり」	0%遮光	8/22±0.2	9/25±0.7	69±0.7	91±1.4	7.5±0.1
	10%遮光	8/22±0.4	9/26±0.3	72±0.5	89±1.2	7.1±0.2
	27%遮光	8/21±0.3	9/26±0.5	74±0.7	83±2.7	6.6±0.2
	41%遮光	8/21±0.2	9/27±0.4	73±0.9	74±2.2	6.0±0.1

表中の±は標準誤差を示す

²開花した小花数と萼基部から花卉先端部までの長さが1.5cm以上に発達した蕾数の和

注) 吸水種子低温処理：2007年5月2日～6月6日，10℃，暗黒条件
 育苗：6月6日～7月17日，288穴セル成型トレイ，なりゆきの温度
 定植：7月17日，区制：1区20株，「ピッコローサスノー」3区制，「雪てまり」：4区制
 遮光処理：8月26日～10月15日